

平成28年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

(評価者：海域ワーキンググループ)

モニタリング項目	No. ⑩ 海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析		
モニタリング実施主体	海上保安庁海洋情報部		
対応する評価項目	IV 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること。		
モニタリング手法	/		
評価指標	表面海水及び海底堆積部の石油、PCB、重金属等の汚染物質濃度		
評価基準	基準値以下の濃度であること。		
評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	表面海水中の水銀と油分は2002年ころまで濃度が不安定で高い値を示すこともあったが、その後は低い濃度で安定している。この調査によって今後も軽微な異変でもある程度感知できると考えられる。遺産地域内海域の海洋環境の適切な保全のため、海洋汚染に対する監視を今後も行う必要がある。		
今後の方針	表面海水中の水銀と油分は2002年ころまで濃度が不安定で高い値を示すこともあったが、その後は低い濃度で安定している。この調査によって今後も軽微な異変でもある程度感知できると考えられる。遺産地域内海域の海洋環境の適切な保全のため、海洋汚染に対する監視を今後も行う必要がある。		

※「今後の方針」には、評価を踏まえた対応方針（例：現状のモニタリングを継続、モニタリング項目の追加、〇〇事業の実施 等）を記載

平成28年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

＜調査・モニタリングの手法＞

- ◇対象地域 オホーツク海
- ◇調査頻度 年1回

＜調査・モニタリングの結果＞

○オホーツク海域の海水調査結果

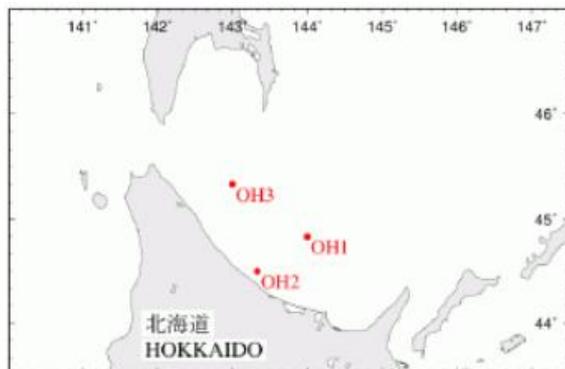


図1 試料採取位置

図出典：海上保安庁海洋情報部「海洋汚染調査報告第43号」

表1 オホーツク海域の海水調査結果

	(単位：μg/L)					
	平成27(2015)年			過去10年間 (平成17(2005)から26(2014)年)		
	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値
石油	0.024	0.017	0.029	0.038	0.013	0.10
カドミウム	0.025	0.021	0.032	0.027	0.011	0.047
水銀	0.00028	0.00023	0.00037	0.00034	0.00025	0.0011

出典：海上保安庁海洋情報部「海洋汚染調査報告第43号」

○オホーツク海域の海底堆積物調査結果

表2 オホーツク海域の海底堆積物調査結果

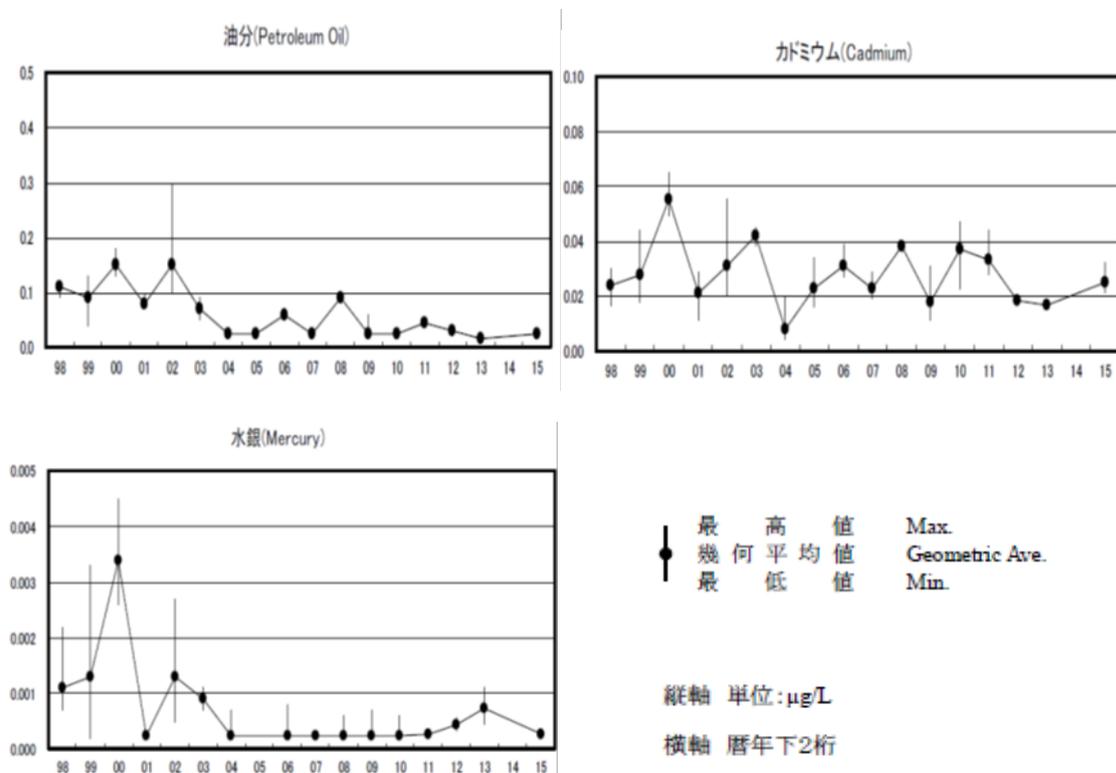
	(単位：μg/g)			
	平成27(2015)年		過去10年間 (平成17(2005)から26(2014)年)	
	最小値	最大値	最小値	最大値
石油	0.4	7.4	<0.1	7.5
PCB	0.0016	0.0033	0.0003	0.0098
カドミウム	0.005	0.066	0.009	0.11
水銀	0.019	0.043	0.024	0.076
銅	18	32	19	34
亜鉛	57	95	44	100
クロム	120	150	120	240
鉛	14	22	10	26

出典：海上保安庁海洋情報部「海洋汚染調査報告第43号」

平成28年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

○オホーツク海における表面海水の汚染物質濃度の経年変化

図2 オホーツク海における表面海水の汚染物質濃度の経年変化



出典：海上保安庁海洋情報部「海洋汚染調査報告第43号」